

メトジェクト®

自己注射を始められる患者さんと同居者などの方へ

自己注射ガイドブック



←こちらから本ガイドブックを
動画でご覧いただけます。



メトジェクト®で治療する患者さんへ

はじめに

メトジェクト®は、週に1回、7日ごとに皮下に注射するお薬です。
ご自宅で注射できると主治医の先生に判断された場合、ご本人またはご本人以外の方によって注射ができるようになります。

はじめてメトジェクト®を自己注射される方は、必ず医師または看護師から、適切な注射方法について指導を受けてください。慣れるまでは、医師または看護師と一緒に注射を行うようにしましょう。

このガイドブックは、ご本人やご本人以外の方によって、適切かつ安全に注射していただくために、注射の手順とそのポイントをまとめています。ご自宅で注射をされる際には、必ず読むようにしてください。

自己注射について、分からなくなったり不安を感じたりした場合は、必ず医師や看護師へ相談してください。



目次

ペン



注射の前に

- 医療機関から渡されるもの 5
- ペンの保管方法 8
- 注射する部位の確認 9

注射の準備

- 注射の前に行う準備 10

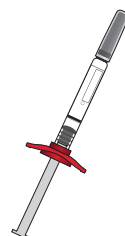
自己注射の仕方

- 自己注射の手順 12

注射のあとに

- 廃棄における注意点 15
- 注意が必要な体調の変化 16

シリンジ



注射の前に

- 医療機関から渡されるもの 18
- シリンジの保管方法 20
- 注射する部位の確認 21

注射の準備

- 注射の前に行う準備 22

自己注射の仕方

- 自己注射の手順（補助具なし）..... 24
- 自己注射の手順（補助具あり）..... 26
- メトラック（補助具）を使う場合の自己注射の手順 ... 27

注射のあとに

- 廃棄における注意点 31
- 注意が必要な体調の変化 32

- よくあるご質問 33



ペンの使い方



注射の前に

医療機関から渡されるもの	5
ペンの保管方法	8
注射する部位の確認	9

注射の準備

注射の前に行う準備	10
-----------------	----

自己注射の仕方

自己注射の手順	12
---------------	----

注射のあとに

廃棄における注意点	15
注意が必要な体調の変化	16

注射の前に

●医療機関から渡されるもの

①ペン

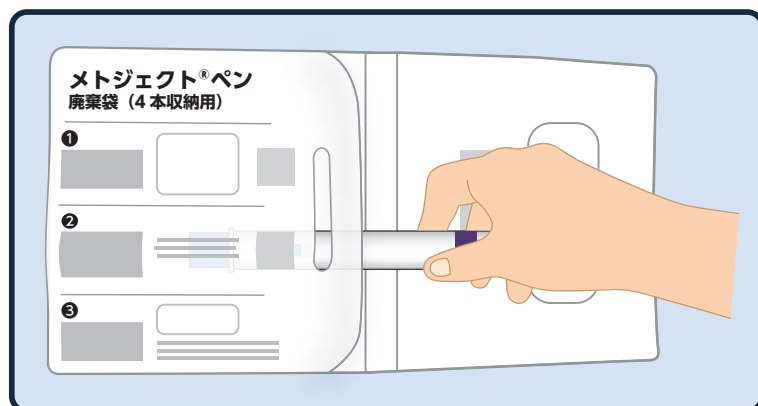


準備ができたならチェックしてください。



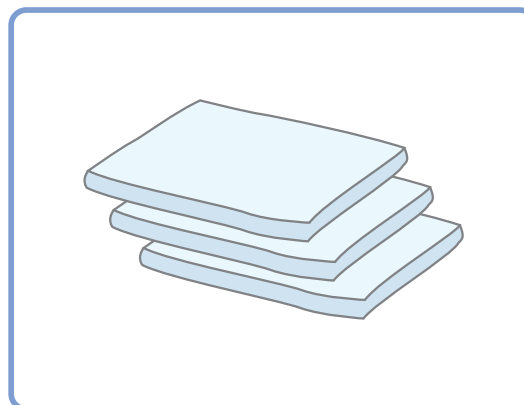
②使用済みのペンを入れる廃棄袋

※廃棄袋にはペンが4本入ります。



③アルコール消毒綿

※注射の前に使用します。



④体調管理ノート

※注射後の体調の変化や気づいたことを記録します。



充填されているお薬の用量別に色分けされています。



赤：メトジェクト®皮下注 7.5mg ペン 0.15mL



緑：メトジェクト®皮下注 10mg ペン 0.20mL



水色：メトジェクト®皮下注 12.5mg ペン 0.25mL



紫：メトジェクト®皮下注 15mg ペン 0.30mL

ペン各部名称と機能

針キャップ
(透明)

針カバー
(青)

持ち手

確認窓

ゴム栓

使用前

使用后



7.5mg

10mg

12.5mg

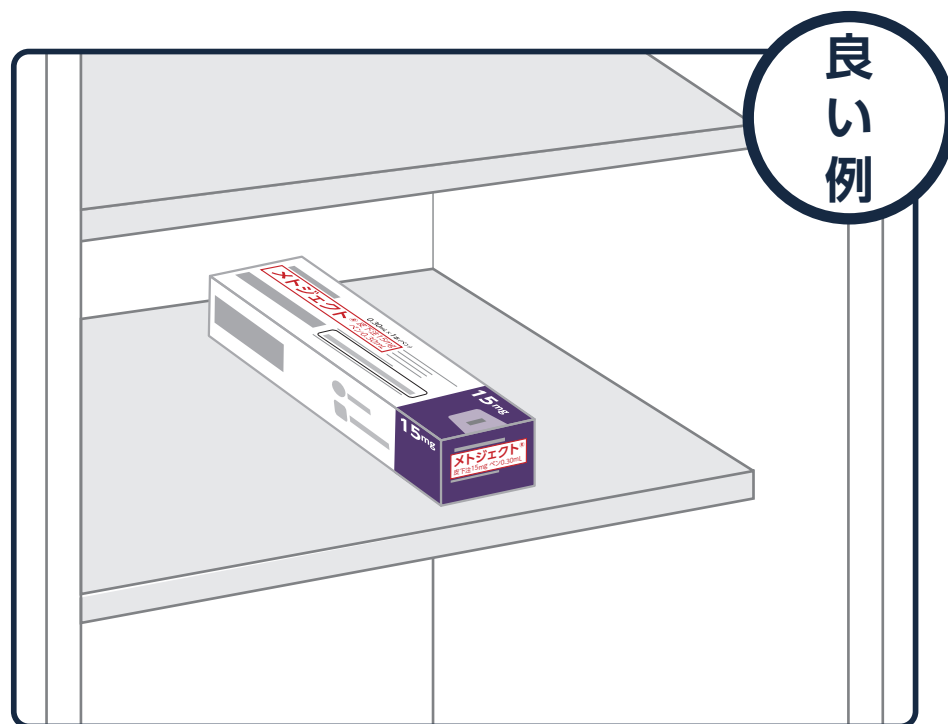
15mg



正しく注入されると、
確認窓は青にかかります。

黄褐色の透明な薬液が見えます。
ゴム栓の位置はお薬の用量で異なります。
薬液の位置により、薬液の見え方（薬液が入っていない、少ない、
分離しているように見える）が異なることがあります。

●ペンの保管方法



25℃以下の直射日光が当たらない場所で保管してください。

遮光性を保つため、ペンは外箱に入れた状態で保管してください。

凍結しないようにしてください。

気温の高い時期に冷蔵庫で本剤を保管する場合は、凍らないよう冷蔵庫内奥の壁から離して保管してください。

お子様の手が届かないところに保管してください。

ご家族にお薬であることを説明し、箱から開けないよう、事前に伝えてください。

注射直前まで箱を開封しないでください。

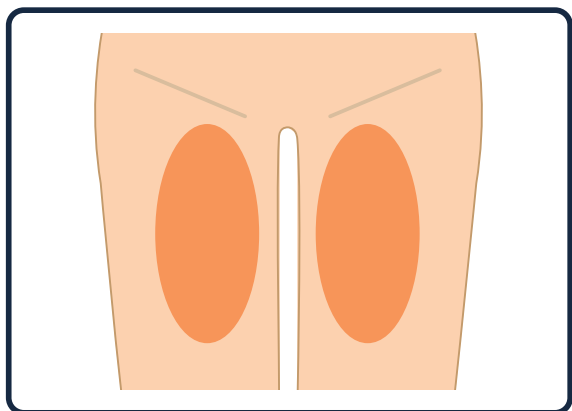
開封により光が当たることで、お薬の品質に問題が生じる場合があります。

●注射する部位の確認

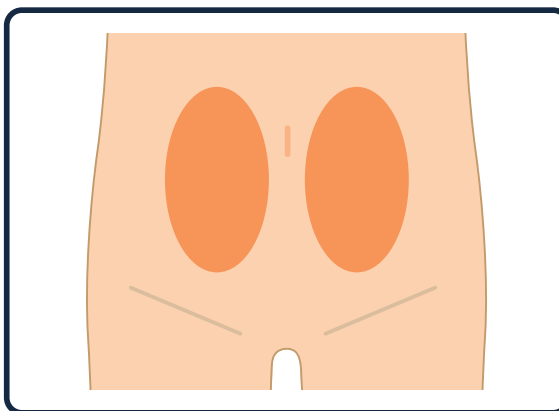
どこに注射するか、注射する前に部位を決めておきましょう。
注射に適した部位は、太もも（大腿部）、おなか（腹部）です。

ご本人以外の方に注射してもらう場合

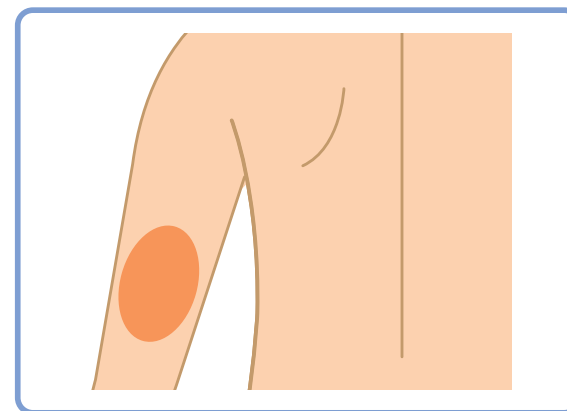
①太もも（大腿部）



②おなか（腹部）



二の腕の後ろ側（上腕部）



⚠ 注意

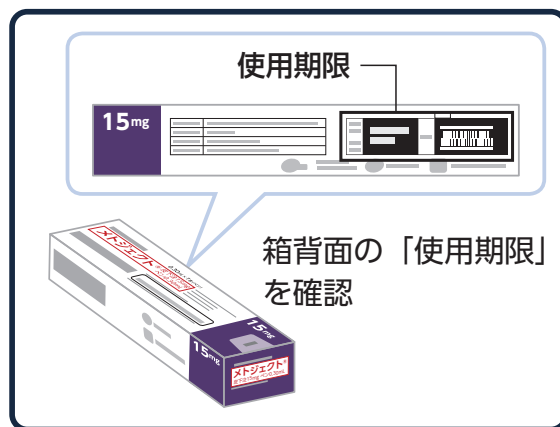
- 注射部位は毎回変えてください（前回注射したところから、少なくとも3cmは離してください）。
- おなかに注射する場合、おへその周辺には注射しないでください。
- ペンは1回使用のお薬です。再使用しないでください。
- 皮膚が赤くなっていたり、傷があったり、硬くなっている場所には注射しないでください。

注射の準備

●注射の前に行う準備

1

ペンの使用期限を確認する



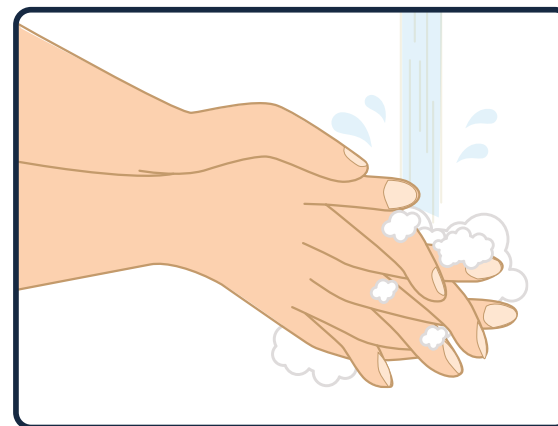
2

清潔で安定した場所を確保する



3

手を洗う

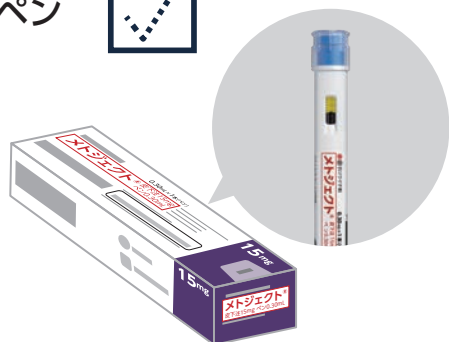


⚠ 注意

- 使用期限が過ぎたものは使用しないでください。
- 注射する直前まで針キャップを外さないでください。
- ペンを振らないでください。
- ペンを冷蔵庫で保管していた場合は、注射する15～20分前に冷蔵庫から出しておいてください。
- 凍結していないか確認してください。凍結していた場合は使用しないでください。

4 注射に必要なものを準備します。

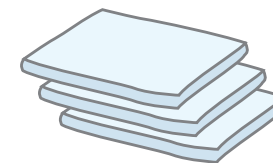
①ペン



②使用済みのペンを入れる廃棄袋



③アルコール消毒綿



5 ペンを取り出します。

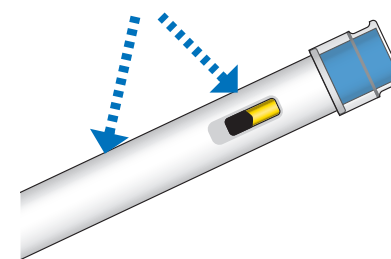
- ペンは箱に固定されていません。取り出す際は落とさないようにご注意ください。
- 緩衝材として白い紙が入っています。緩衝用の紙で、ペンの針キャップ部分をおおっています。

⚠ 注意

ペン・薬液について、以下を確認します。

- ペンに異物が入っていないか
- ペンが破損していないか
- 針キャップが外れておらず、しっかりはまっているか
- 使用期限が過ぎていないか

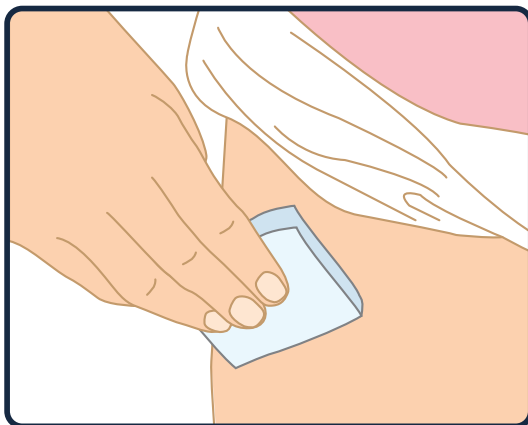
- 本剤は黄褐色の透明な薬液です。薬液がにごったり、変色したり、粒子が含まれている場合は使用せず、医師や看護師、薬剤師に必ずご連絡ください。
- 薬液の見え方が画像と異なる場合は、針キャップを上にして持ち手部分を持ち、下に軽く振りおろすと確認窓から薬液が確認できます。
- 薬液中に気泡があっても、そのまま注射を行っていただいて問題ありません。



自己注射の仕方

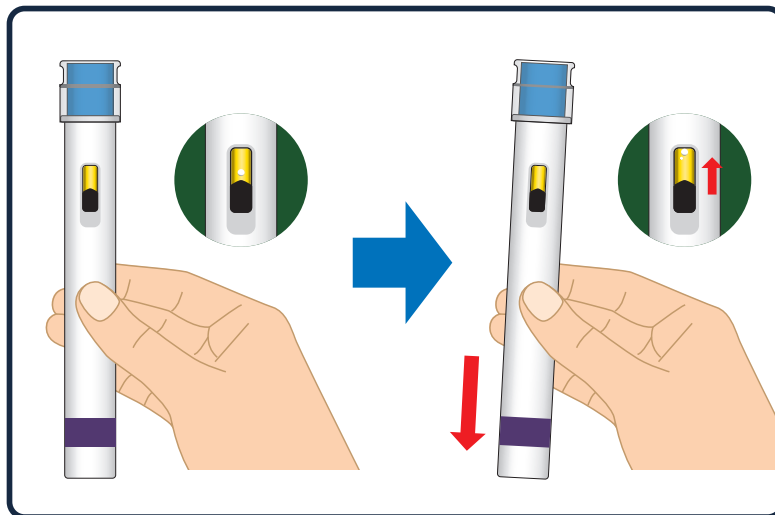
●自己注射の手順

1 消毒する

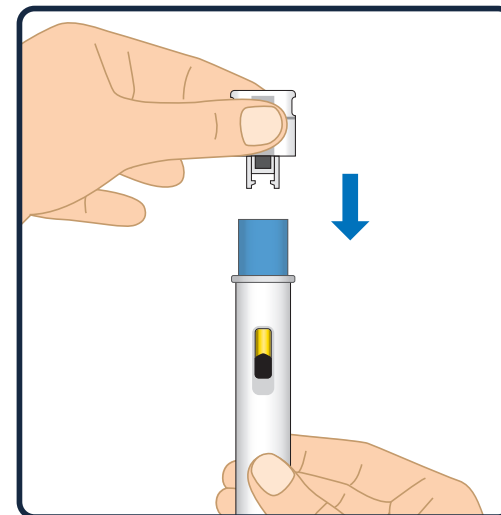


- 注射する部位をアルコール綿で消毒します（アルコール消毒綿は事前にご準備ください）。
- 消毒した注射部位が乾燥するまで待ちます。

2 針キャップを取り外す



- 針キャップを上に向けて持ち、軽く下に振りおろし、気泡を針キャップの方向に移動させます。
- 薬液中に気泡があっても問題ありません。

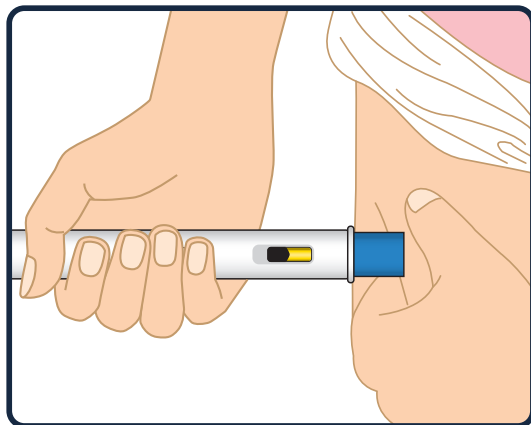


- 針キャップを上に向けて持ち、本体を下に引き抜きます。
- 薬液があまり動かず、とろみがあるように見えても問題ありません。
- 針キャップを外したあとに、液漏れがあっても問題ありません。

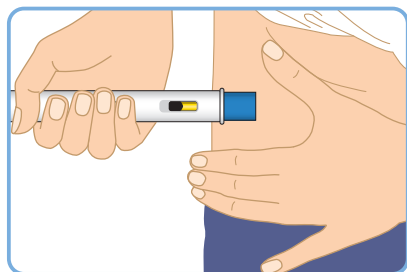
⚠ 注意

- 針キャップを取り外すときに針キャップを曲げたり、ねじったりしないでください。
- 針キャップを外した後は、再度針キャップをしないでください。
- 青い針カバーに触れないでください。誤って注射が開始され、けがをする可能性があります。
- 針キャップを外したら、すぐに注射をしてください。

3 皮膚をつまむ

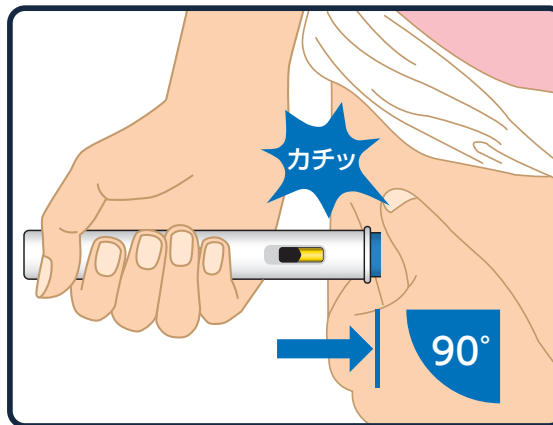


- 確認窓が確認できるよう、ペンを持ちます。
- 注射部位の皮膚を軽くつまみます。

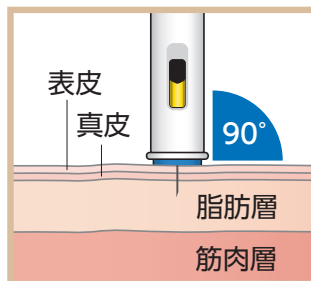


- 皮膚がつまめない場合は、親指と他の4本の指で皮膚を広げて張らせるようにします。

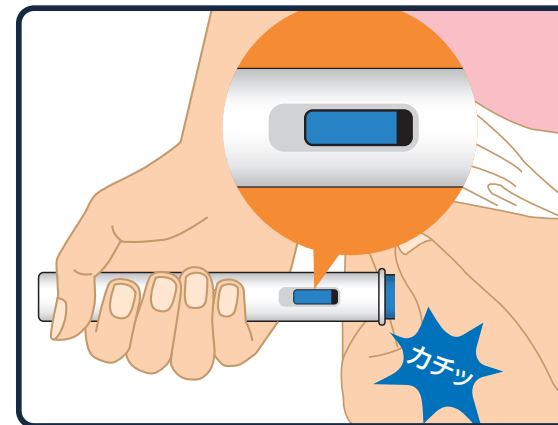
4 注射をする



- 針カバーを注射する部位に垂直に当てます。
- ペンを注射部位にまっすぐ押し付けてください。
- 薬液の注入がはじまると、1回目の「カチッ」という音をする、あるいは確認窓が上から青色に変わります。
- ペンを押し当てたままにし、動かさないでください。



5 ペンを5秒以上押し当てる

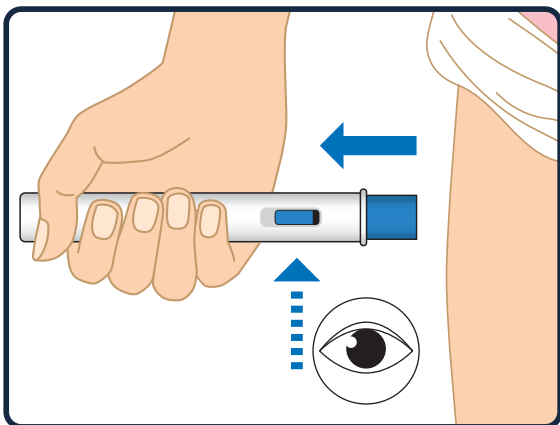


- ペンを5秒以上、注射部位に押し続けます。
- 確認窓の青色が動かなくなる、あるいは2回目の「カチッ」という音が出ると、注入は終了です。
- 確認窓の青色が動かなくなったのを確認します。

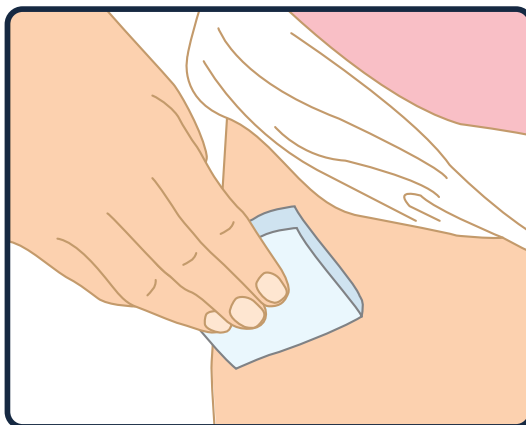
「カチッ」という音は2回連続して鳴るため、音が1回に聞こえる、または聞こえにくい場合がありますが、問題ありません。

音が確認できなかった時は、確認窓の青色が動かなくなったことを確認してください。

6 ペンを離す



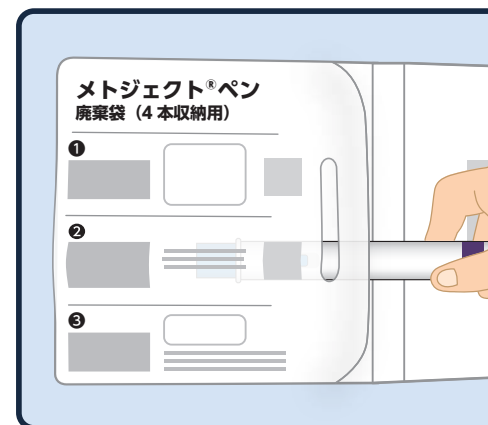
- 確認窓の青色が動かなくなったのを確認して、5～10秒待ってから刺したときと同じ角度でペンをゆっくりとまっすぐ抜きます。



- アルコール消毒綿で約10秒間静かに押さえ、消毒綿を離して血が出ていないことを確認します。
- これで注射は終了です。

⚠ 注意 ● 腫れることがあるので、注射した場所を揉まないでください。

7 ペンを廃棄する



- 使用済みのペンは、針キャップをせずにそのまま廃棄袋に入れてください。

取り外した針キャップ



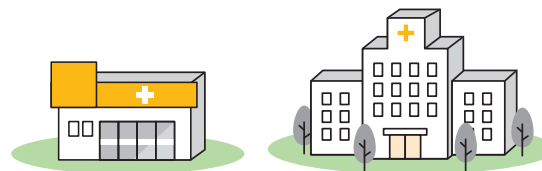
注射のあとに

●廃棄における注意点

使用済みのペンを入れた廃棄袋



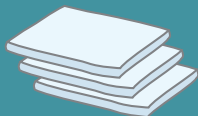
メトジェクト®での治療または処方を受けている医療機関（病医院、薬局）から指示された方法で、処分してください。



針キャップ



使用済み
アルコール消毒綿



特に医療機関から指示がない限り、家庭ごみとして各市町村の分別方法に従って捨ててください。



●注意が必要な体調の変化

メトジェクト[®]の副作用の中には、発見が遅れると重症化するものがあります。

下記の症状に気づいた場合は、
すぐに医師に連絡してください。

- ◆発熱
- ◆咳（から咳・持続する咳）
- ◆息切れ
- ◆息苦しさ
- ◆口内炎
- ◆（ひどく）疲れやすい
- ◆のどの痛み
- ◆からだがむくんだ、かぜのような症状
- ◆尿の量・回数が急に減った
- ◆皮膚の赤み、かゆみ
- ◆目の充血
- ◆激しい腹痛、下痢等の症状

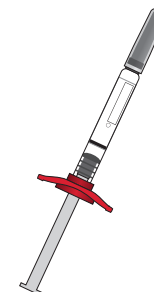


副作用の出方には、個人差があります。
早期発見のためにも体調の変化や気づいたことを「体調管理ノート」に記録しましょう。

副作用は、注射の直後にあらわれることもあれば、数日経ってから気づくこともあります。ご自身の体調の変化を見逃さないようにしましょう。



シリンジの使い方



注射の前に

医療機関から渡されるもの	18
シリンジの保管方法	20
注射する部位の確認	21

注射の準備

注射の前に行う準備	22
-----------------	----

自己注射の仕方

自己注射の手順（補助具なし）	24
自己注射の手順（補助具あり）	26
メトラック（補助具）を使う場合の自己注射の手順 ...	27

注射のあとに

廃棄における注意点	31
注意が必要な体調の変化	32

注射の前に

●医療機関から渡されるもの

①シリンジ



準備ができたらチェックしてください。

針キャップ

※針キャップは写真と異なる
タイプの場合もあります。

薬液が入っています

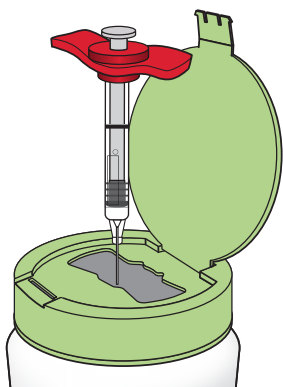
押し子



つばもと

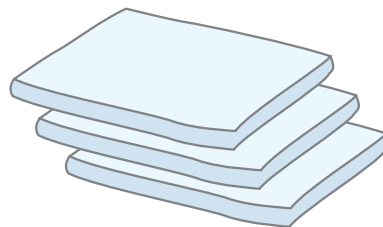
②使用済みのシリンジを入れる廃棄ボックス

※廃棄ボックスにはシリンジが12本
入ります。



③アルコール消毒綿

※注射の前に使用します。



④体調管理ノート

※注射後の体調の変化や
気づいたことを記録します。



充填されているお薬の用量別に色分けされています。



赤：メトジェクト®皮下注 7.5mg シリンジ 0.15mL



緑：メトジェクト®皮下注 10mg シリンジ 0.20mL



水色：メトジェクト®皮下注 12.5mg シリンジ 0.25mL



紫：メトジェクト®皮下注 15mg シリンジ 0.30mL

●シリンジの保管方法



25℃以下の直射日光が当たらない場所で保管してください。

遮光性を保つため、シリンジは外箱に入れた状態で保管してください。

凍結しないようにしてください。

気温の高い時期に冷蔵庫で本剤を保管する場合は、凍らないよう冷蔵庫内奥の壁から離して保管してください。

お子様の手が届かないところに保管してください。

ご家族にお薬であることを説明し、箱から開けないよう、事前に伝えてください。

注射直前まで箱を開封しないでください。

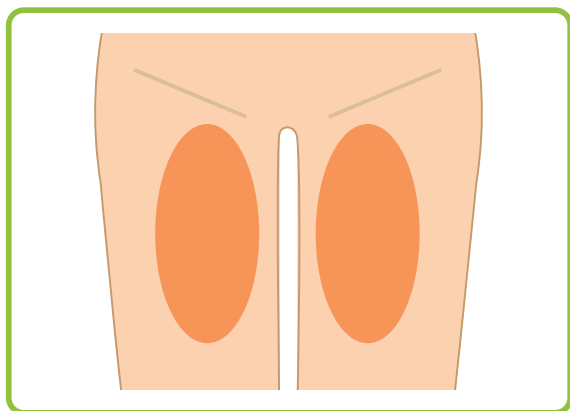
開封により光が当たることで、お薬の品質に問題が生じる場合があります。

●注射する部位の確認

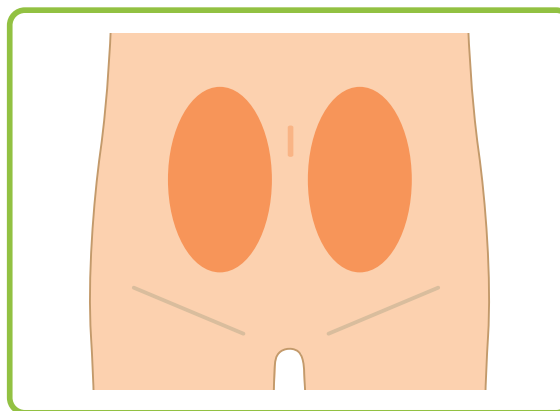
どこに注射するか、注射する前に部位を決めておきましょう。
注射に適した部位は、太もも（大腿部）、おなか（腹部）です。

ご本人以外の方に注射してもらう場合

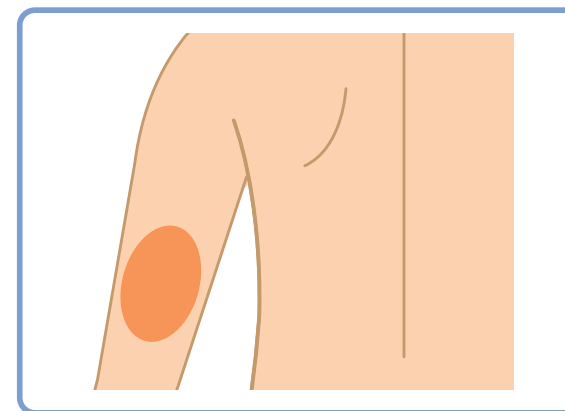
①太もも（大腿部）



②おなか（腹部）



二の腕の後ろ側（上腕部）



⚠ 注意

- 注射部位は毎回変えてください（前回注射したところから、少なくとも3cmは離してください）。
- おなかに注射する場合、おへその周辺には注射しないでください。
- シリンジは1回使用のお薬です。再使用しないでください。
- 皮膚が赤くなっていたり、傷があったり、硬くなっている場所には注射しないでください。

注射の準備

●注射の前に行う準備

1

シリンジの使用期限を確認する



2

清潔で安定した場所を確保する



3

手を洗う



⚠ 注意

- 使用期限が過ぎたものは使用しないでください。
- 注射する直前まで針キャップを外さないでください。
- シリンジを振らないでください。
- シリンジを冷蔵庫で保管していた場合は、注射する15～20分前に冷蔵庫から出しておいてください。
- 凍結していないか確認してください。凍結していた場合は使用しないでください。

4 注射に必要なものを準備します。

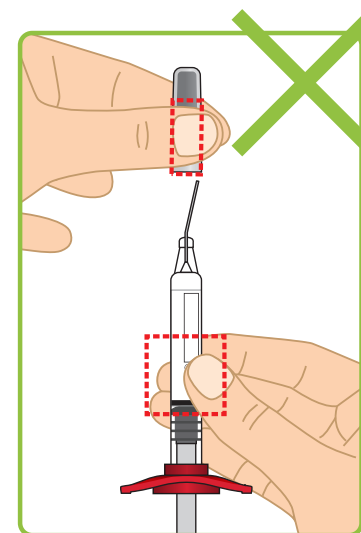
以下が準備できているか確認します。

- ①シリンジ
(箱から取り出します) 
- ②使用済みのシリンジを
入れる廃棄ボックス 
- ③アルコール消毒綿 

！ 注意

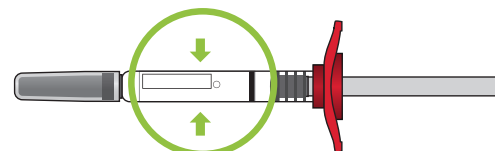
- 注射する直前まで針キャップを外さないでください。

針キャップを外してしまった場合は、再度針キャップをはめないでください。針刺し事故や針折れ、針曲がりにつながるおそれがあります。



- シリンジを箱から取り出す際は、本体の中央部分をつまんで持ち上げてください。

本体の端の方を持ち上げると針が曲がるおそれがあります。



ここをつまむ

自己注射の仕方

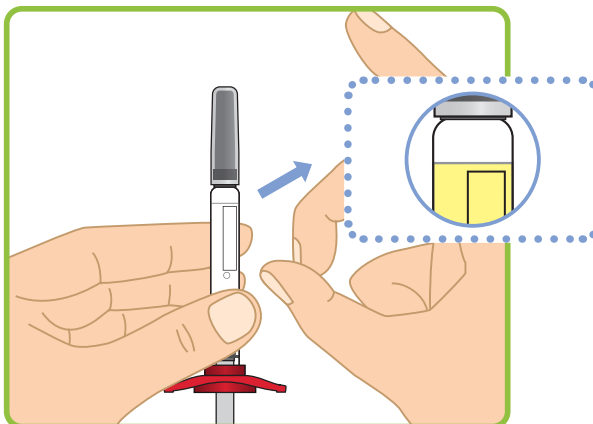
●自己注射の手順（補助具なし）

1 消毒する



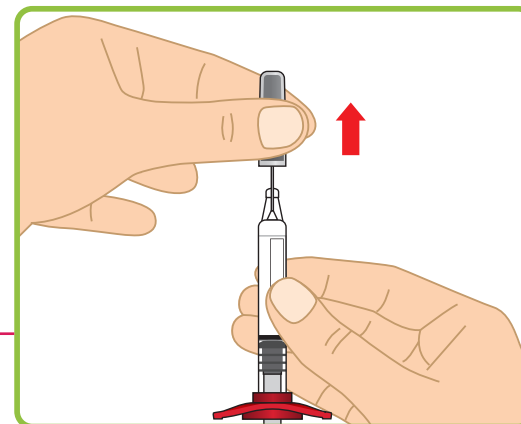
- 注射する部位をアルコール綿で消毒します（アルコール消毒綿は事前にご準備ください）。
- 消毒した注射部位が乾燥するまで待ちます。

2 気泡をシリンジ先端に移動する



- シリンジの胴体を指先で軽くたたき、気泡をシリンジの先端に移動させます。
- 薬液中に小さな気泡が残っていても問題ありません。
- 薬液があまり動かず、とろみがあるように見えても問題ありません。
- 針キャップを外したあとに、液漏れがあっても問題ありません。

3 針キャップを取り外す

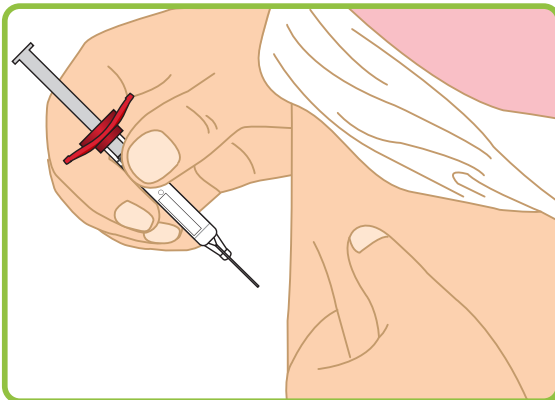


- 針キャップをまっすぐ上に向けて、シリンジの中央部分をしっかり持ちます。
- 針キャップをまっすぐ引っ張り、取り外します。
- 針キャップがきつくて動かない場合は、少しねじりながら引っ張ってください。
- 押し子に触れないようにしてください。
- 薬液中に気泡があってもそのまま注射いただいて問題ありません。

⚠ 注意

- 針キャップを外す際には、注射針に触れないように気をつけてください。
- 針キャップを外した後は、再度針キャップをしないでください。
針刺し事故、針曲がりや折れにつながるおそれがあります。

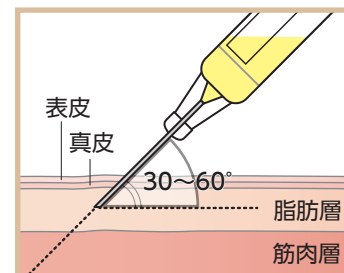
4 皮膚をつまむ



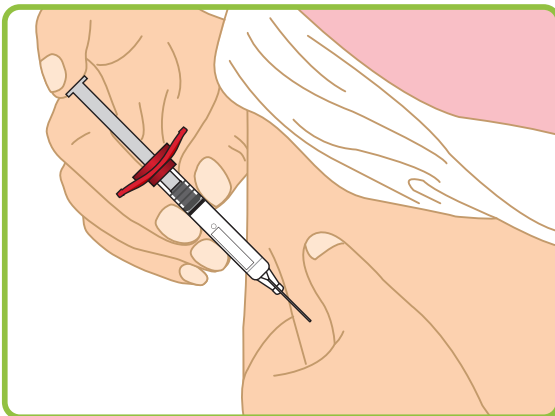
■ 注射部位の皮膚を軽くつまみます。

！ 注意

- 腫れることがあるので、注射した場所を揉まないでください。

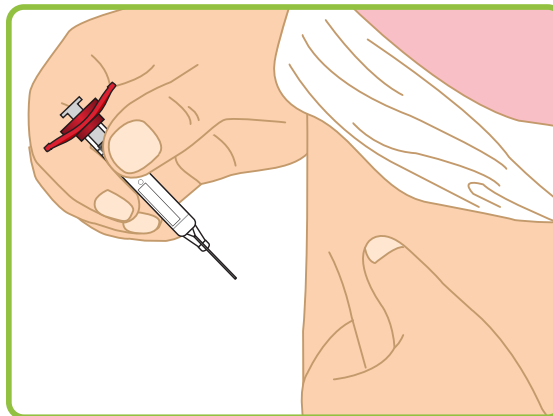


5 注射をする



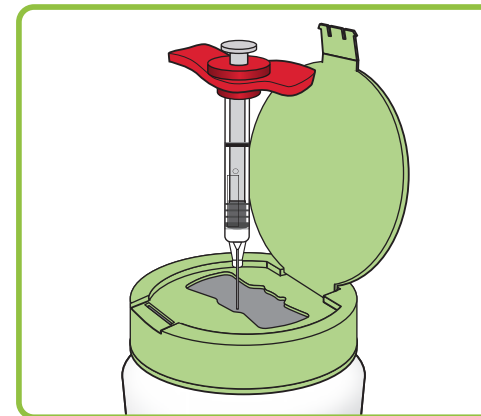
- 針を皮膚に刺します。
- 注射する角度は45° (30~60° くらい) にしてください。
- 押し子をゆっくりと奥まで押し込みます。

6 注射を終えて



- 薬液が空になったのを確認して、5~10秒待ってから刺したときと同じ角度で針をゆっくりと抜きます。
- 針を抜くまで、皮膚をつまんだままにします。
- アルコール消毒綿で約10秒間静かに押さえ、消毒綿を離して血が出ていないことを確認します。これで注射は終了です。

7 シリンジの廃棄



- 使用済みのシリンジは、針キャップをせずにそのまま廃棄ボックスに入れてください（詳細はp31をご覧ください）。

●自己注射の手順（補助具あり）

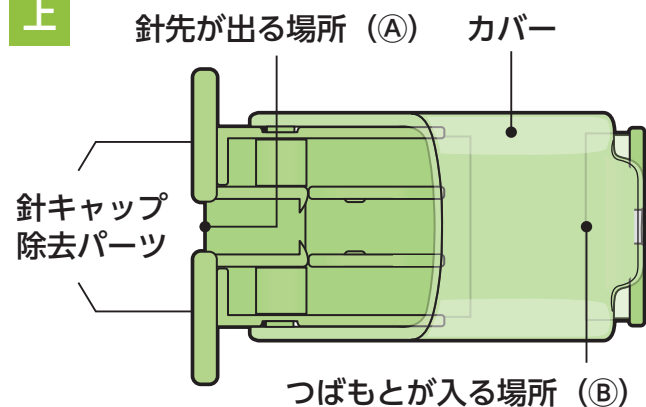
メトラック（補助具）の各部の名称

メトラックは、適切に自己注射をしていただくための補助具です。

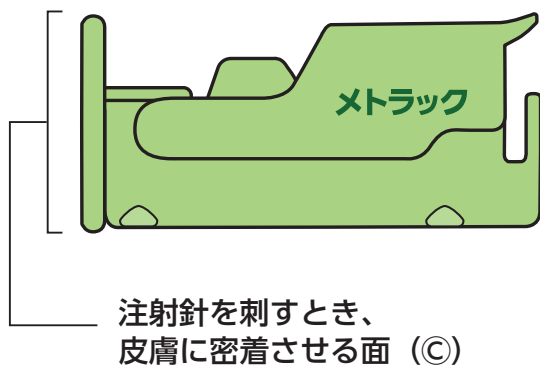
- ①針キャップを安全に外すことができます。
- ②注射時に針を皮膚に一定の深さで刺すことで、安定して注射をすることができます。

■メトラック

上



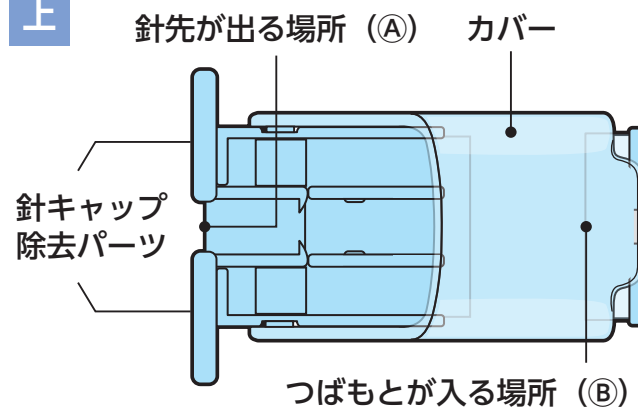
横



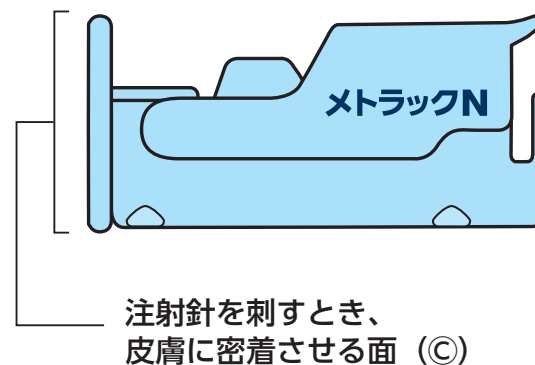
※針キャップを外す際、針キャップ除去パーツが自動で戻ります。

■メトラックN

上



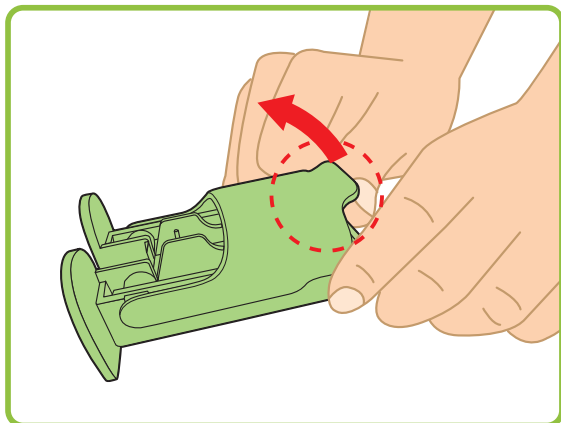
横



※針キャップを外す際、針キャップ除去パーツが自動で戻りません。

●メトラック（補助具）を使う場合の自己注射の手順

1 カバーを開く



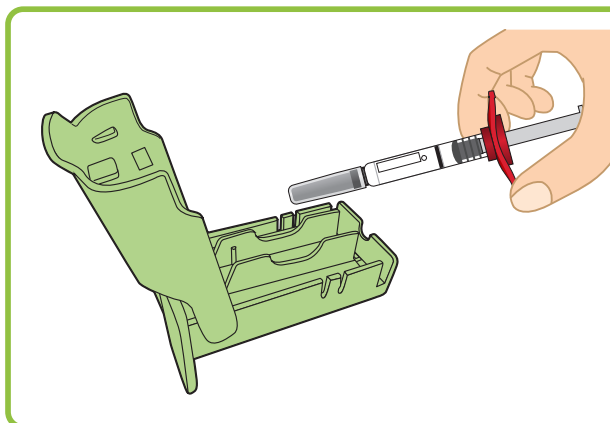
■ カバーに親指をかけて引き上げると開きます。

2 気泡をシリンジ先端に移動する

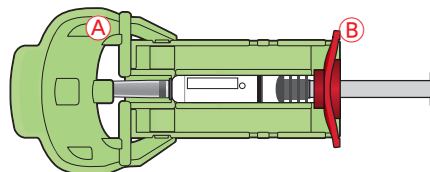
■ シリンジの胴体を指先で軽くたたき、気泡をシリンジの先端に移動させます。（詳細はp24②をご覧ください）

- ・ 薬液中に小さな気泡が残っていても問題ありません。
- ・ 薬液があまり動かず、とろみがあるように見えても問題ありません。

3 シリンジを補助具に取り付ける



補助具にシリンジを取り付けた状態

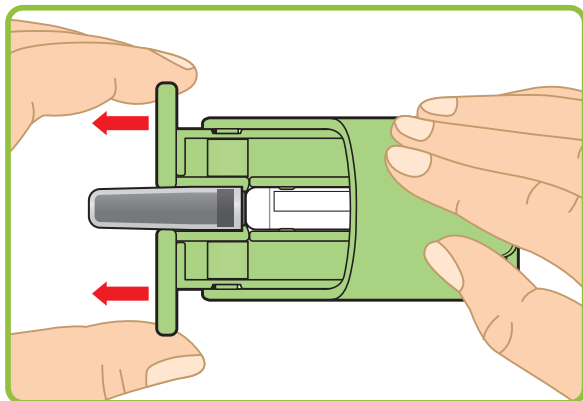


- シリンジは、針キャップをつけたまま①側に針先を、②側の溝につばもとを置きます。
- 押し子に触れないようにしてください。

！ 注意

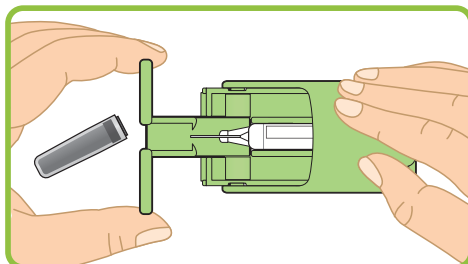
- 補助具の針キャップ除去パーツに、針キャップとシリンジのくぼみが噛み合うように置いてください。補助具本体の溝につばもとを置いてください。つばもとの裏表は関係なく取り付けられます。

4 針キャップを取り外す



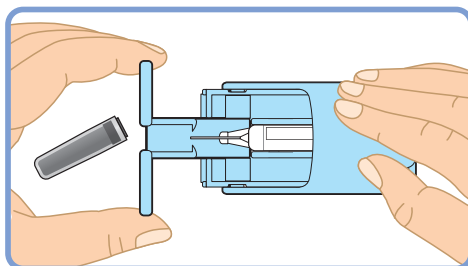
- 補助具を広く安定した場所に置き、片手でしっかり押さえ、もう片方の手で針キャップ除去パーツをつかみ、矢印の方向へ伸ばします。
- 押し子に触れないようにしてください。

■ 針キャップ除去パーツを伸ばし切り、針キャップが外れるのを確認してください。



【メトラック】

針キャップ除去パーツを元の位置に戻します。
手を離すと自動的に戻りますが、手を離さずにゆっくりと戻してください。



【メトラックN】

針キャップ除去パーツから静かに手を離します。
注射が終わるまで、針キャップ除去パーツを触って動かさないよう十分注意してください。

！ 注意

- 針キャップを外す際には、注射針に触れないように気をつけてください。
- 針キャップを外した後は、再度針キャップをしないでください。針刺し事故、針曲がりや折れにつながるおそれがあります。
- 針キャップを外したあとに、液漏れがあっても問題ありません。

5 注射する場所を消毒する



- 注射する場所をアルコール消毒綿で消毒します。

6 注射針をまっすぐ刺し、ゆっくりと注射する

①片手で補助具をしっかり持つ。

②もう片方の手で消毒した場所の周囲の皮膚を軽くつまむ。

③C面を皮膚に密着させるように、針をまっすぐ刺す※1。

④補助具をしっかり持ったまま皮膚をつまんでいる手を離し、離れた手でゆっくりと押し子を最後まで押し切る※2。

片手で注射も可能

■ ①～④の順で注射をします。

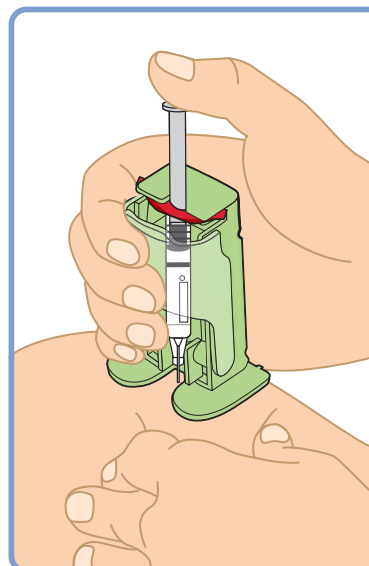
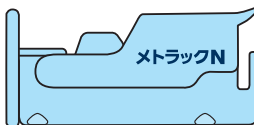
■ 片手で注射することもできます。

※1 針がしっかりと刺さっていることを確認してください。

※2 皮膚をつまんでいた手を離す際に、針が抜けたり刺さり方が浅くならないように注意してください。

⚠ 注意

- 「メトラックN」は、裏返すことで針先が見えにくくなります。注射針に触れないよう十分注意してください。



■ メトラックを使用して大腿部へ注射することも可能です。大腿部へ注射する場合は、皮下脂肪内に確実に注射できるように、片手でしっかりと皮膚を持ち上げて注射を行ってください。

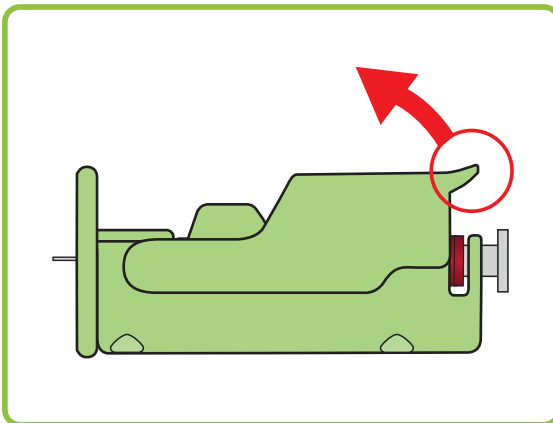
■ やせていて大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方には、この注射方法は推奨できません。

7 針を皮膚から抜き、
アルコール消毒綿で押さえる

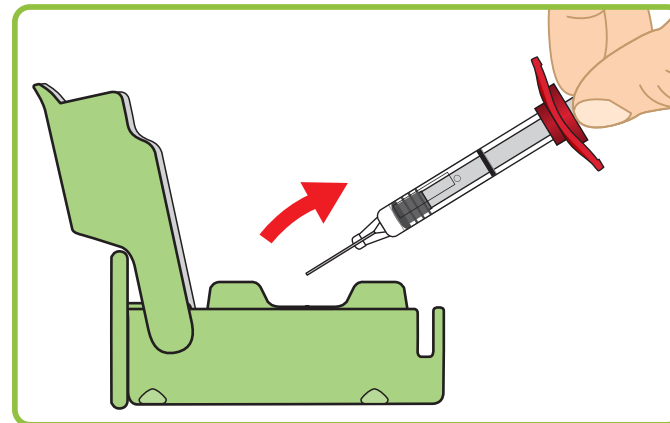


■ 薬液が空になったのを確認して、5～10秒待ってから刺したときと同じ角度で針をゆっくりと抜きます。アルコール消毒綿で約10秒間静かに押さえ、消毒綿を離して血が出ていないことを確認します。これで注射は終了です。

8 補助具からシリンジを取り出す



■ カバーに親指をかけ、引き上げるとカバーが開きます。



■ 針先に触れないよう十分注意して、シリンジを取り出します。取り出した**シリンジは針キャップをせずに**廃棄ボックスへ廃棄してください（詳細はp31をご覧ください）。

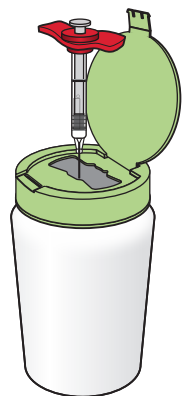
！ 注意

- 腫れることがあるので、注射した場所を揉まないでください。
- 補助具は、繰り返しご使用いただけます。汚れた場合は水洗いをし、十分に乾かしてからご使用ください。
- 補助具の不具合を感じたら、使用せずそのままの状態（補助具にシリンジを取り付けている場合はその状態）で、医療機関にお渡しください。

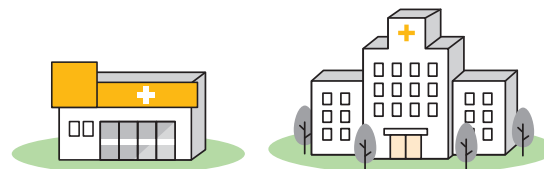
注射のあとに

●廃棄における注意点

使用済みのシリンジを
入れた廃棄ボックス



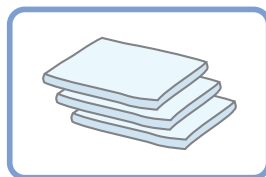
メトジェクト®での治療または処方
を受けている医療機関（病医院、
薬局）から指示された方法で、処
分してください。



針キャップ



使用済み
アルコール消毒綿



特に医療機関から指示がない限
り、家庭ごみとして各市町村の分
別方法に従って捨ててください。

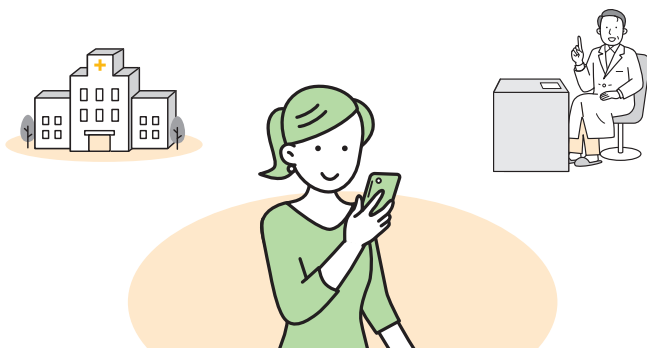


●注意が必要な体調の変化

メトジェクト[®]の副作用の中には、発見が遅れると重症化するものがあります。

下記の症状に気づいた場合は、
すぐに医師に連絡してください。

- ◆発熱
- ◆咳（から咳・持続する咳）
- ◆息切れ
- ◆息苦しさ
- ◆口内炎
- ◆（ひどく）疲れやすい
- ◆のどの痛み
- ◆からだがむくんだ、かぜのような症状
- ◆尿の量・回数が急に減った
- ◆皮膚の赤み、かゆみ
- ◆目の充血
- ◆激しい腹痛、下痢等の症状



副作用の出方には、個人差があります。
早期発見のためにも体調の変化や気づいたことを「体調管理ノート」に記録しましょう。

副作用は、注射の直後にあらわれることもあれば、数日経ってから気づくこともあります。ご自身の体調の変化を見逃さないようにしましょう。



よくあるご質問

Q1. 注射する間隔を守れない場合はどうすればよいですか？

- A. 予定日に注射できないことがあらかじめ分かっているときは、医師に相談して指示を受けてください。
連絡がとれなかった場合には、注射をしないで翌週から指示通りに注射してください。そして、次の診察のときに注射しそびれたことを必ず、医師に伝えてください。

Q2. 予定日に注射するのを忘れてしまったら？

- A. 自己判断せずに医師に連絡し、指示に従ってください。
決して複数回分を一度に注射しないでください（Q1参照）。

Q3. 体調がすぐれないときでも、注射はできますか？

- A. 注射する前に医師に連絡し、指示に従ってください。
特に咳、痰が出ている場合は、すぐに医師に連絡してください。

Q4. 注射の後に具合が悪くなったらどうすればよいですか？

A. 気になる症状があらわれたら、次の通院日を待たずに、すぐに医師に連絡してください。

※「注意が必要な体調の変化」については、p16（ペン）、p32（シリンジ）をご参照ください。

Q5. 薬液の中に気泡があった場合は、どうすればよいですか？

A. 皮下注射のため、薬液の中に気泡があっても抜く必要はありません。

気泡は人体や投与量には影響ありませんので、そのまま注射を行ってください。

Q6. 薬液が目や傷口に入ってしまったら？

A. 薬液が目などに入ってしまった場合は、すぐに水で洗い流し、しばらく様子を見てください。

いつもと違うと感じた場合は、医師へ連絡してください。

Q7. 注射した部位が腫れたり、かゆくなったときは？

A. 医師に連絡し、指示を受けてください。

Q8. メトジェクト®を正しく保管していなかった場合は？

A. 冷蔵庫で凍らせてしまったり、箱から出したメトジェクト®を日の当たる場所に置き忘れてしまった場合は使用しないでください。

また、使用しなかったメトジェクト®の処分方法や、足りなくなった分についてどうすべきか、医師や薬剤師へ相談してください。

※メトジェクト®の正しい保管方法は、p8（ペン）、p20（シリンジ）をご参照ください。

※使用しなかったメトジェクト®をそのままゴミ箱に捨てないでください。

メトジェクト®を使って具合が悪くなったときの
連絡先を控えておきましょう

お名前

緊急連絡先

医療機関名

主治医

先生

電話番号

()

自己注射開始日

年

月

日

メトジェクト®に関するお問い合わせ

エーザイ株式会社hhcホットライン

フリーダイヤル（通話無料）【9時～18時（土、日、祝日9時～17時）】

患者さん用：**0120-151-454**

<製造販売元>

日本メダック株式会社

東京都中央区日本橋本町 3 丁目 11 番 5 号

<販売元>

エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4-6-10